

令和7年度

－第4回－

安平町教育委員会会議録

1 日時 令和7年7月22日(火) 13時30分～15時25分

2 場所 総合庁舎 中会議室

3 出席者

役職名	氏名	出・欠
教育委員	山根弘文	出席
	佐々木望	出席
	守屋竜起	出席
	廣川由香里	出席
教育長	井内聖	出席
学校教育担当次長	佐々木英生	出席
社会教育担当次長	渡邊匡人	出席
教育指導参事	小笠原伴行	出席
学校教育GL	上岡敦	出席
社会教育GL	武田一倫	出席
学校教育専門官	山田頌	出席
子育て・教育総合専門官	岡崎工三	出席

安平町教育委員会事務局

内容/議題	・報告 2件 ・議案 2件		
日付	2025/07/22 13:30～	場所	総合庁舎 中会議室 1
発言者	・井内教育長 ・佐々木次長 ・上岡 GL ・渡邊次長 ・小笠原参事 ・守屋委員 ・廣川委員 ・山根委員 ・山田 LPM ・岡崎 LPM ・佐々木委員		

概要

- ・報告第 1 号 諸般報告
- ・報告第 2 号 令和 7 年度要保護・準要保護の認定について
- ・議案第 1 号 安平町給食センター運営委員会委員の委嘱（補充）について
- ・議案第 2 号 令和 6 年度教育委員会事務事業点検・評価報告について

決定事項

- ・議案第 1 号 原案とおり可決
- ・議案第 2 号 原案とおり可決

次回開催予定	2025/08/27 13:30
---------------	------------------

詳細議事内容

開会 13:30

井内教育長

はい、それでは定刻となりましたので令和7年度第4回安平町教育委員会を開催したいと思います。ただいまの出席人数は2名ですので定足数を満たしていますので成会といたします。会議録署名については、本日佐々木委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。それではまず1報告、報告第1号諸般報告。事務局よりお願いいたします。

佐々木次長

【 諸般報告 】

井内教育長

1.諸般報告についてご質問等ありますでしょうか。

廣川委員

7月8日の安平地区のまちづくり協議会で閉校活用構想要望についてSNSで見たんですけど、どれくらい具体的な話を。

佐々木次長

資料、今日持ってきてないんですけども、例えば1階はコミュニティースペースとか、風呂場もつけたり。1階にお風呂場を設けたり、校舎全体に団体さんの構想っていうものが書かれていて、それについて進めていきたいと。基本的には教育委員会にも要望があったんですけど、町にも要望があったので、その安平小学校ってやっていくべきかどうかというのは、これからの検討になると。

井内教育長

はい、他いかがでしょうか。よろしいですか。では続いて報告第2号。令和7年度要保護・準要保護の認定について、事務局説明をお願いいたします。

上岡 GL

報告第2号。令和7年度要保護・準要保護の認定について。令和7年度要保護・準要保護の認定について次のとおり決定する。令和7年7月22日提出。安平町教育委員会教育長。提案理由。令和7年度要保護・準要保護の認定について、審査結果に基づき決定したので報告するものである。

【 資料により説明 】

井内教育長

ただいま事務局より説明がありましたが、この件に関しましてご意見ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続きまして、議案の方に入りしたいと思います。議案第1号、安平町給食センター運営委員会の委嘱（補充）について、事務局をお願いします。

上岡 GL

議案第1号、安平町給食センター運営委員会委員の委嘱（補充）について。安平町学校給食条例第6条第3項の規定により、別紙のとおり安平町給食センター運営委員会委員を委嘱することについて議決を求める。令和7年7月22日提出。安平町教育委員会教育長。提案理由。現委員の退任、及び欠員であった追分小学校保護者代表について補充委嘱するものである。

【 資料により説明 】

井内教育長

ただいま事務局より説明がありましたが、この件に関しましてご意見ご質問等ございますでしょうか。ご意見等

なければ議案第 1 号は提案とおり可決いたします。続きまして議案第 2 号に移ります。議案第 2 号、令和 6 年度教育委員会事務事業点検・評価報告について、事務局お願いいたします。

渡邊次長

議案第 2 号、令和 6 年度教育委員会事務事業点検・評価報告について。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定により、別紙のとおり教育委員会の事務事業点検、評価報告書を議会に提出し、公表することについて議決を求める。令和 7 年 7 月 22 日提出。安平町教育委員会教育長。提案理由。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に、「事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない」とあることから提案するものでございます。諸般報告でもさせていただきましたが、社会教育委員会を開催させていただきまして、その中でも事前に報告はさせていただいているところでございます。社会教育委員の皆様方の意見の部分ちょっと触れさせていただくんですけれども、行政的な評価ということで事務担当を中心にやらせていただいたところでございますが、ご意見といたしましては現行で我々の方で評価させていただいたよりも事業に関してですとか、達成としては高いんじゃないかというようなご評価をいただいたんですけれども、教育委員会全体としては様々な課題点があるので評価を厳しくさせていただきながら、提出をさせていただきました。これ加えると言いましょか付け加える中で委員のご意見としては、もう少しこう評価としては上でないかというようなご意見をいただいたという状況になります。資料は、社会教育グループというフォルダーの中に今日追加しておりますのでご確認ください。以上です。

井内教育長

それでは令和 6 年度教育委員会事務事業点検・評価報告についてご意見ご質問等ありますでしょうか。

廣川委員

今までよりしっかりと厳しい目で見て、これがさらに今後どんどんどん、●●とするならば非常にいい評価じゃないかと。

井内教育長

やはり今のいろいろと教育行政のところで取り組みを進めてる中で、課題がないのって話にはならないと思いますから、今までやってきたことをしっかりと受け止めて、やはり検証、検討していくところがあるというふうに見ていたところ、どうしてもその評価は厳しめに出してしまうなど。まあ社会教育委員の皆さんからも少し厳しい評価ではないかというご意見もいただいたんですけども、まあ事務局としては今後さらに改善を図ってより充実させていきたいという思いでこういった評価をしたというふうに聞いております。補足あるでしょうか。

守屋委員

今まで結構、課題あるのに A ついてんなとかってところも結構あったような気がした。

廣川委員

今まで、A とか B がたまにあるみたいな感じが多かったけど、しっかりと D もあったりして。

守屋委員

C が多かったり D があったり。

渡邊次長

古くから遡って、やったってことは評価ではなく。でもやったことに対しても課題があると思うんですね。そこをきちんと整理していかなければ次の課題に。無視していけないですけど、自分の見た感覚として社会教育に関しては、継続が疲れる方の継続なのかなと。継続が実のある方に変えていければいいのかなと思う。社会教育、委員会スタッフもそうなんですけども、そのお手伝いになっちゃうというのが、まあどうしてもそういうふうに分としては捉えられてる。職員としてもうちょっと整理していくためには、もう少しこう評価をきちんとしながら、町民の方に担っていただくものと委員会が関わってくるものの整理を。教育委員の皆さん方には一応させていた

だいた施設の整理なんかもあるんですけども、それと見直しも含めて社会教育側の課題っていうのは多種多様にあるのかなと。来年度は部活動移行だとか大きな事業もあるので、しっかりこう役割分担しながら新しい課題に対応できるような職員の体制を作っていかなければならないと。少し厳しめに見ながら、やったものはやったものとして整理しつつ、新しいものにも対応できるようにそういった整理ができて行けばいいんだっていうふうには感じながらちょっと見させていただいてはいます。

守屋委員

昨年度から見やすくなって、前は課題とか書いてなかったの。書いてないというか、本当に箇条書きだったから、なんで A なのかっていうのも分からなかったから見やすくて。

井内教育長

他、いかがでしょうか？

山根委員

8 番の社会体育施設の整備が評価 D ということで、将来的には廃止するっていう形での D なんですか。

渡邊次長

そこが 議論最中だったものですが、ある程度整理がついていくと段階的に評価が上がっていくのかと思うんですけど。ちょうど皆様方にお諮りをしていて。初めて社会教育員の皆様方に先週の会議で説明をさせていただいたって流れで、これをもって関係する各委員ですとか団体の皆様方に 1 回全てご説明をさせて頂いた流れになっています。議会ですとかくり返しながらなんですけど、教育委員会、社会教育委員会、スポーツ推進委員含めて社会教育施設に関係する皆様方のご意見をいただきながら、早ければ令和 8 年度から整理をしていきます。この整理点、整理がきちんとしてくると評価が上がる形になってくるかなと思っております。今は行革 2022 の課題として整理しなければならないっていう一番下の位置で、見直しの都度、段階的に評価は上げさせていただければと考えております。

井内教育長

他いかがでしょうか。

廣川委員

社会教育委員会で意見を、グループディスカッション形式をされてますよね。これは今回初めてですか。

井内教育長

前年度もあつたんですけども、どうしても全体の中で聞いてしまうと意見を言う、言える方が言ってしまうと、広く意見が。全く一言も発しない方がいらっしやるので、広く全員が声を出せるようにっていう形をとってます。

渡邊次長

社会教育グループの中に、今の情報公開用ということで整理してたんですが、間に合いましたので、資料として社会教育委員会の意見等添付させてください。代表的なというか主だったものの整理はしておりますので、皆様方の意見。

井内教育長

他いかがでしょうか。では特に修正意見等ありませんでしたので、議案第 2 号は提案とおり可決といたします。以上を持ちまして議案の方を終了いたします。続いて、3 番協議報告事項の方に移りたいと思います。まず学校教育グループお願いいたします。

佐々木次長

フォルダの中に学校運営協議会の開催した資料や会議録を入れさせていただいております。概要について。

山田 LPM

箱崎さんと私が、追分の学校運営協議会の会議について事前にお話をしながら、今回については来年度に

向けて授業時数特例校というのを使って、国語とか算数とかの 5 教科の時間を少しずつ減らして総合的な学習に充てたいということ、9 月の町民説明に向けてまず学校運営協議会にきちんとお話をしたいということで箱崎さんと当日の流れであるとか打合せました。学校運営協議会で時数特例校を増やしていきますということについて承認をいただきましたという形にして、9 月の町民説明会では、子ども園からの地域の学校運営協議会で全て承認いただいておりますという説明の仕方をしてはどうかというアドバイスをいただいて、そのような形にしたいという資料になっています。いきなり時数特例校の話をしては訳が分からないので、まず、今の社会情勢の話と、親世代が培ってきた常識とはどんな世界の中で培われてきたのか、

井内教育長

すみません、ちょっとこれ説明してもらっていいですか。皆さんがそれぞれ見るより。

山田 LPM

僕からお話したことが、3 つ今日お話しすると。1 つ目社会の変化について共有します。これは山田の資料です。2 つ目、現状の安平の実践について共有します。これが片山と追記してるものです。最後、じゃその諸課題を解決するための方策と承認の依頼っていうのが、最後佐々木が行った時数特例校の申請という部分になります。今私が話したのは、社会教育事業として始まったあびら教育プランっていうものが、少しずつ学校教育の教育家庭支援事業と繋がりはじめていますという事実をお話したい。で、この社会教育で始まったあびら教育プランっていうものが、まあこれはファウンディングベースが一番最初に作った資料をリスペクトして出してきたんですけど、作り出したいのは子どもたちが一歩踏み出す瞬間ということで、まあその時に僕が話したのは一般的に公営塾と言われるものが受験対策塾をやりますよという自治体が多い中で、安平町っていうのはどちらかというとこの総合的な学習であるとか、入試で言うと AO 入試ですよ。点数を取るものではなくて、子ども達が自分で発信をするっていうところもこういう塾的なものでやっているっていうのは非常に珍しい自治体で、私はそれをすごくいいなと思ってここに来るに至っています。そういった社会教育でやっていた総合的な学習的な公営塾が、少しずつそれって学校教育の中でやる方がいいよねっていう形で学校の中にも染み出してきているんです。授業が終わってからやっていたものが、授業の中にも入ってくるイメージっていうのを皆さんにお伝えしたいですっていうお話をしました。大別すると、でそうなるんですけど、なんでそれが大切なのかっていう目線合わせをしていきました。結構、象徴的なスライドがこの辺りで、私達の常識はどんな時代の常識か。1980 年生まれ、現在 45 歳の人を想定すると出生数は 160 万人、生産年齢人口は 7800 万人で高齢化率 9.1% のバブル経済的に生まれた人なんですね。だけど、この人たちが 20 歳になる頃には生産年齢人口が 1300 万人増えてバブル崩壊したので失業率が過去最大で、就職氷河期の真っ只中で仕事がない。仕事に就けない。まあドル円相場はまあまあ高いので日本の競争力はあるけれども国内で仕事が無いみたいなのも、今 45 歳ぐらいの人はちょうど就職の時に経験してきた訳です。追分の学校運営協議会のお話を聞いてる人達は、大体こら辺の年齢層の方々です。今 15 歳の子どもなので 30 歳で産んでる人たちが今この 45 歳の人達なので、中 3 の子どもを持つ人が 30 歳で産んでたとしたら、これぐらい真っ只中の人達です。その人達の常識っていうのは強い競争、圧力っていうのがかかります。大量の同世代のライバルの中で勝ち抜いて、良い成績を収めて正規雇用を勝ち取って、年功序列と終身雇用の中で安定した生活を送るっていうゴールイメージがあって、大量の人に優劣をつけなければいけない時代ですよ。ここは納得でき当事者ですね。じゃあ 20 年経って、20 歳ジェネレーションを針を進めると何が起るって言うと、今 20 歳の人達の常識はどんな常識なのかっていうと、数字で見るとこう分かってくるわけです。まずそもそも生まれる人は減ってるし、生まれた時は 8400 万人。生産年齢人口。自分が仕事をする 2024 年の時にはもう 1100 万に減っているわけです。だから実は今現在 20 歳の子達って、就職氷河期のこととか無縁なんですね。働こうと思えばいくらでも正規雇用がある時代に日本はなりました。でも高齢化

率は30%で、社会保障費がめちゃくちゃ高く、相対的に暮らしが厳しいというのが現在の20歳の子達なんですよ。ねって話を。まあ、結果こういうのもあるんですけど、絶望と無気力の時代が今の20歳の子達です。自分より上の世代には競争圧力をかけられる、目の前人手不足が広がるにも関わらずホワイトカラーロードシンクがゆえに解消されず、頑張りたくてもその方向性が見えず、でもなんとなく生きていくことができるんです。社会が別にすごい社会不安があるわけでもないし、治安もいいし。物価は高いけど、賃金は安いけど、なんとなく生きていけることができる20歳の子達。これが一般的なモデルが通用しなくなった時代の、今の新入社員の人達です。みたいな話をするとめちゃくちゃ納得してもらいました。特に今ミドルマネジメント層で、自分がその新入社員と関わってる立場の人達が、Z世代分かんないみたいなやつはこういう背景があるんですよ。みたいな話をしたら、すごい納得してくれました。絶望と無気力っていうのは自殺率にも現れていて、今子どもの自殺が増えています。どんどん若年層がこうやって絶望している時代です。2024年に生まれた人、今ゼロ歳の人達はどんな未来を生きていくのか。去年生まれたのは68万人です。私の世代のちょうど半分ですね。2040年の生産年齢人口は6200万人。今人手不足って言うのに、さらに1100万人減るわけです。地方の深刻な人手不足がさらに進行して、社会保障費が増大。人手不足が進行して競争自体が成立しない中で、いつまでその競争をするんですかっていうような話をしています。なぜそれが必要なのか数字を見ると分かってくる。自分達の常識とは全く違う常識になっていく時代っていうのが、もう今起こっているところをお話をしました。生成AIの話をちょっとして、これからは好奇心と決断と美意識ってものが必要になってくってという話を生成AIのデモンストレーションしながらして、ただこれまでの学校教育で好奇心とか美意識に主眼が置かれた時間はあったでしょうかって聞きました。無かったんですよ。これまでの学校教育の中で。そしてその中で出口の保障って言って、まあ厳しい言い方ですけど、生徒が苦小牧東に行きたいって言ったら、合格させられることが大事ですよ。みたいな感じで中学生には出口保障という言葉を使っていくわけです。競争が発生する、点数主義の正解主義の一番上のところに行きたいって子どもが言ったら行けるってことが大切です。でも、もう世の中の出口の保障って、そういう正解主義の中に無いていうのは数字を見れば明らかなので、出口っていう場所を捉え直していかなければならないです。絶望と無気力を希望と活力の時代にしていくために、こういうことが必要なんじゃないですかっていう目線合わせ。これは別に国が言ってることとも通じます。6月16日の一番新しい資料で、国もこれからまず分厚い教科書全部教えなくていいですよって言ってますし、それに合わせて高校入試も改革しなきゃいけませんねと。今の高校入試は分厚い教科書全部教えないと解けないものになってるから、授業はそうなる。だからその高校入試側を変えなきゃいけないよ。ねっていうことは、中教審も言っている。だから今やろうとすることが一律の正解主義から脱却して、学校と教師に余白を見出して、現場に権限を委譲しダイナミックに即効性のある施策を促し、それぞれの地域、学校に合わせた教育をするということで色んなことをしようとしています。あと最後です。じゃその実際は、もう目の前に起きてきてるってお話です。もう大学の入試改革ってのは長らく行われていて、結果が出始めています。イギリスの格付け会社があるんですけど、そこは日本の大学ランキング行ってます。5年連続1位は東北大学。東京大学ではない。海外で日本で競争力のある大学っていうと東北大学の名前が上がってくるのが5年目です。じゃその東北大学が何をやってるかっていうと、もうAO入試全振りしていきます。2040年に向けて全てAO入試に変えていくというニュースが流れてますし、実際半分が総合と選抜になってるのが東北大学です。そこはもう、世界でも競争力高いと言われているんです。我々が共通一次とかセンター試験とか、共通テストとか言ってたっていうところとは違う動きをしている大学が、もうすでに競争力が高いってことが示されています。まあこの大学を見ていけば最終的に方向も変わってくるわけで、動きの速い私学で言うと私立学校の高校は変わり始めています。で、その例として青翔開智、鳥取の中高一貫校をあげました。鳥取の青翔開智を見ていただくと分かるんですけど、進路の大学の横にその子が3年生で書いた論文のテー

マが載ってます。この子達進学校なんですけど、3年生でもガツガツ探求やるんですね。ガツガツ自分の卒業論文を書くんですよ。高校の時。この論文を引っ提げてAO入試で受かっていく。大学は欲しいですよ。この研究室のこの先生のとこで、高校でやってたこの研究を続けたいんですけど言ったら、喉から手が出るほど欲しいわけですよ。結果、海外進学してくんですね。鳥取から。海外進学。鳥取から海外進学なんてことは無かった。青翔開智が興るまで。でも、こういう地殻変動が起きているし、一番驚かれたのはこの青翔開智の母体です。ここ学習塾です。学校法人鶏鳴学園。元々学習塾が建てた中高一貫校が、こういうふうに総合に全振りをしてAO入試で大学に受かる。別に大学に受かることが幸せではないですけど、でも一生懸命正解主義の競争やってる子達のゴールイメージは大学なんですよ。じゃその大学が今どういう風に変わってるのかってことも知っていただく話もして、だから今学校運営協議会でこういうお話を伝えたので、現状安平町がやっているここまで来ましてよっていう総合のところを見ていただいて、その総合がいいなと思っていただければこの総合の時間を増やしたいっていう来年度に向けての時数特例校に皆さん賛成していただきたいですというお話をしました。実態みたいところはちよちよちよちお話をしていたところですよ。片山さんのスライドを見ていただくと、なんとなく今こんなことやってるんですよってのも見ていただけたと思います。途中で三品先生が10分間の自由を子ども達に提供して、友達が要するに動けなかったって実態が追分小学校5年生にあって、それ見ていただきました。教育委員会に。それを皆さんにも見ていただいたらどうかっていう話が出て、学校運営協議会でもそこも見ていただいて、まあこれが現時点ですというお話。最終的には時数特例校の話をしました。気になるのは学校運営協議会委員の皆さんの反応だと思います。反対意見は一つもなく、どっちかっていうと、すぐにでもやらなきゃいけないので、今すぐにやったらいいじゃないですかっていう意見が。総合っていうものに対しては、まず多かった。不安っていうものについては、これだけ社会が変化しているということに対する答えの見えなさの不安みたいなものは、いくつかいただきました。その社会の変化っていうのはイコール北海道でもですかっていう、日本全体に対して北海道って今この位置にあるんですかっていう不安であったり、後は我々が任期を終えて安平町でのこの仕事が無くなった後もこれは継続できるのかっていうのは、やっぱりこの言葉っていうのは現場の先生達に届いているのか、先生達はこれを学ぶ機会があるのかっていう不安がいくつか出てきました。一つ一つ回答しましたし、大事なのはこれを承認して続けてもらえるのっていう質問ではなくて、承認した以上続けなさいって学校運営協議会から学校と教育委員会に対して言ってほしい。地域から、これをやってほしいって声があることが私たちが動く一番大きい原動力になるので。続けてもらえるんですかじゃなくて、続けなさい。続けるためには我々はどうしたらいいんだぐらいの勢いで皆さんが承認していただけると、非常に続きやすいというお話をして終わりました。

井内教育長

この件に関して、ご質問等いかがでしょうか。先ほど東北大学の話あったんですけど、先月かな。その元文科副大臣の方と一緒に対談する機会があって、その話の時その方も全く言っていて、東大の世界での地位っていうかランクが下がってきてるんだ。でその東北大学が上がったのは、単純に東大がまだ受験の偏差値学力、ペーパーテストで学生取ってるからそれで世界から評価されなくなってきた。でいうので、それよりも先ほどの青翔開智っていうところがやるみたいに、とにかく自分の研究したいこととかがしっかりあって、でそのそういった学生が大学に入ってきて、さらに研究を進めていくっていうそういう大学が世界的に評価されるっていうそういう時代になっちゃってるんですよって話をまあ聞いてきて、今の山田さんの話全て重なるんでそうなんだっていうふうに思っているところです。自分はこれ参加してなかったんで、様子は聞いて、そういうことだったんだと思っただけですけど、皆さん何か聞いてみたいこととか。

守屋委員

委員さん達の反応が良かったっていうのが安心したというか。みんな思ってるんだっていうのが、だんだんとそう

いうところから形に見えていくと、それこそ他の方々にも広まっていくだろうし、すごくいい感触なんじゃないかな。

井内教育長

追分中学校の1階にホールがあって、そこをどうするかって3年生が考えるんですけど、今までの授業だったらただ考えるだったんですね。そうじゃなくて3年生が町に繰り出して、町の人にインタビューしてフィールドワークして、もしここ使うんだとしたらどんなのがいいですかって町の人に聞いてみようって聞いて。で、そこでまとめた考えとかを1、2年生に発表するんですけど、今までだったら体育館とかで集まって1人ずつ発表することなんですけど、そうではなくてたくさん場所を使ってホールを中心に音楽室だとか技術室だとか家庭科室だとか、あと特別支援の教室とかもあるんですけどそこにいろんな所にポスター貼って、聞きに来たい1、2年生来てって言ったら2人しか来ないところ、5、6人来るとこもあるんですけど、それで発表してて。発表してる中3の子は1人で発表したんですよ。ほとんどが。1人で語ってすごいなと思って。そしたらきちんとインタビューだとかそういった根拠を基にして、ここのホールこういうふうを活用したらいいと思うんだけど。その後聞いてた人にどうですかってまた聞くんですよ。今までだったらただ調べて一方的に伝えてたものが、まずは当事者の声を聞いて自分たちがまとめて、でそれを説明したらさらにフィードバックもらってて。そういった学びも含めて安平の教育が少し変わっていくんじゃないかなって。それに対して今日も保護者の方も見に来てくれましたから、そうやって少しずつ。同じように早来学園の方でも、こういったお互い刺激を受けながらやっていってるのでその方向に。時代に合ってる方向には進んでるんじゃないかなと。

守屋委員

追分にしても早来にしても、こうやって地域や保護者とかの影響がありそうな方々に理解されるっていうのは、自然と広がってくんじゃないかなと。周りにも理解されんじゃないかな。

山根委員

総合学習って、追小の3年生から6年生までやってんですか。

山田 LPM

今は5年生のみです。

山根委員

対象は3年生から6年生で、やってるのは5年生。中学生はどうなんですか。

山田 LPM

今は2年生の一部の単元で、来年の2年生の内容をもう少し拡充したい。ただ校長先生としては、1から3年一気に来年やろうよみたいなのところもあるんですけど、逆に我々側の職員の巻き取るリソースがその来年4月に本当に、5、6、中1から3っていう形でできるのかみたいなのが協議ではあるんですけど。結局、あとは時数特例校の総合にどれだけONするかっていう、どれだけ減らしてどれだけ入れるのかってところはまだそれぞれ現場の先生と今調整中です。ただ、方向性として総合増やしたい。そのために教科の時間は多少削ることになるけど、総合に向かいたいっていうことについて大筋合意をいただいているというのが現時点です。もしかしら、あまりにもすごい総合、総合って言ったので、実際に総合を増やす量が少ないんじゃないかって意見とかは出てくるかもしれないんですけど、そこは地域と小学校との話になってくるので、そこはまた丁寧に。

山根委員

先週から、たまたま追分小学校の4年生の安平川の報告発表会があって、そして保護者の方とまあ私達、町おこし研究所の人まあ2人だったんですけども、箱崎さんと私ちょっと参加したんですけど非常にいい内容、14時間もそれに使ってやってたので非常にいい内容で、たまたま片山さんいたのでまあ総合学習のことちらっと聞いたりしてはしてたんですけども。すごい片山さん自体ももう子ども達とものすごくもうあれですよ。親密になってるし、すごくいい感じになってるなと。

守屋委員

それ大事ですよ。そういう人たちが親密になるのって。

山田 LPM

ちょっと別の話していいですか。時数特例校ではない話ですが、箱崎さんが、ぜひ追分高校の学生さんも学校運営協議会の場に呼びたいと。庄司校長先生と、追分出身で追分高校に居るお子さん 2 人と保護者の方にも声をかけて、保護者の方の合意は得られた。本人達は行きたい気持ちもあるけど、どんなものかわかんないけど、とりあえず 9 月行くという状況です。これに対して最終、自分達も参加したいっていう風になった時に、来ていただくことはもちろん全然いいと思ってますけど開かれた学校運営協議会として。委員として委嘱するかって話は、最終、教育委員会の決定になると思うんですね。そこについては、その 9 月に実際高校生が見に来て、高校生の意見もあってどうするかってとこでお諮りすることになると思いますので、ちょっと頭出しで。枠としては 2 名空いていて、当初の予定では、地域学校協働本部のコーディネーターさんが決まったら後から入ってもらおうって言って空けている部分です。その辺りまたどうするかっていうのも 9 月以降ぐらいに話したいと思いますというのが 1 個目で、2 個目が青翔開智のお話をしたんですけど、そこで、是非こういうところ見たいですよって話を、教育委員会の方でも教育長と視察として我々が行って学んできたっていうのを考えてます。それが 11 月に青翔開智の受け入れがあるんです。視察受け入れの日があって、というふうにしたら、結構もうその追分の箱崎さんがもし教育委員会で行くなら情報が欲しいという動きにもなっているんですが、予算はないと思うので。学校運営協議会に。そこら辺の交通整理をさせていただいて、教育委員会でもこうしたいですっていうふうになると思うので。そういう動きがあるよっていうことをお伝えしたいです。いいことです。方向性としては。

井内教育長

では続きまして早来学園の方。

岡崎 LPM

最初に報告等を行って、協議を行いました。そもそも、この学校運営協議会で何を協議していきたいのかということ、第 1 回目の時にアンケートで聞いたんですが、ほぼほぼ出てこなかったんです。学校運営協議会ってそもそも何をやったらいいのかとか、私との関係性もまだまだ委員の方と無かったので、委員 12 名のうち 10 名にヒアリングをさせていただいて、今どのように考えているのかとか学校に対しての課題とか聞かせていただきました。聞いた上で調査の結果なんですけど、委員の方々の声を、関係性を見える化したものです。これをまとめている最中に、網代先生が学校便りで「学習権の侵害?!」というのを出しました。ずっと学校の方にも何を議論したらいいですか、何か問題ありますかって聞いた時に特に無いって事しかなかったんですけど、実はやっぱり学校の中での学習の状況があまりよろしくないということになって、学習意欲だったりとか学校への不満だったり、多様性への対応ってというようなところなど色々な意見が出て、じゃあここについて話し合いをしましょうっていうことでやりました。案件としてはやはり重いですし、委員の中にも、もっと学力を重視していくような事が必要なんじゃないか、学習権が侵害されてるんじゃないかっていう方向と、実際、生徒指導案件をお持ちの委員の方もいて色んな多様な価値の方もいらっしまったので、ちょっと配慮が必要だなと思って問いを立てながら対話型の意見交換をさせていただきました。この中で見えてきたことは、やはり非常に今価値観が多様化しているんで、そもそも大人世代と子ども世代の価値観ギャップもあるよねとか、あと保護者同士でもあるよねとか、自由とか善悪、常識とかそういったものが一筋縄でいかない。今まではこういうもんだよねっていうのが共有されてたことが、やっぱりなかなか共有されていない、できない状況だよなみたいなことが見えてきました。それに対して、やはりじゃあその困ってる子どもってのは、背景に何かあるのかってことももっと掘り下げていかなきゃいけないし、理解しなきゃいけない。先生達も実は困ってるんじゃないかみたいなところまで見え

てきました。これに対して色々な問題とか提議されたことはいっぱいあるんですけど、やっぱり私達自身が学んでいかないと分からないわけで。あくまでやっぱ自分の価値観っていう色眼鏡で物事を見てしまうのでいけないよねっていうことで、まずは学校の中の状態を見てみましょうということで授業参観等をしていきました。また、これから提案していきたいのは、ここに上がってるような事柄に対して先んじてやってるような学校だったりとか同じような義務教育学校だったり、課題に関しての学びの場を勉強して行って、10月ぐらいにこういう方向でやってた方がいいんじゃないかみたいのがまとめられると、次年度の学校経営方針に載せられるんじゃないかなっていうことを考えています。本来だったらみんなの丘についてわいわいしながら、あれどうしようかみたいな話をしたいなと。関係性がやっぱりなかなか保護者と学校ができてないことが分かっていたので、やりたいなと思ってたんですけど、その前に結構重いお便りが出たので、まあこれを契機に学校のSOSとして捉えてこれを話しはじめました。まなびおに関しては、学童が本来40人ぐらいのところ80人ぐらい居るのかな。高学年になると居づらいと。そこに。なので、まなびおに来てしまうと。まなびおには司書さんが居ますが、司書さんは子どもの面倒を見る仕事ではないで、いつ来ていつ帰ってるかわからないとか、そういう問題があるよねと伝えられてるので、まなびおに関しては改めてどういうふうに活用、管理していくのかとか、今そもそも何の問題があるかみたいなのは笠山さんの方でまとめるという話になっています。早来の方はどちらかという足下を1回見てみましょうということで、その中で先ほど山田さんが説明してくれたように、これからの未来の話と足下をどう繋げていくのかっていう事を議論できたらいいかなと思います。

山根委員

授業中に寝たり、話を真剣に聞かない、精神的、身体的に苦痛を与える。具体的には何か。

岡崎 LPM

これは網代先生が出されたやつに書かれてるものなんですけども。実際に生徒指導案件になっていますね。タブレットで。それだけではなくて、いわゆる発達障害系の子が教室から飛び出してっちゃうと、先生がその1人の子に付かなかいけないうような問題だったり、大声を出すとか。それによって授業を受けられないということが起こってますし、そもそも楽しくないとかそういう声が保護者から上がっていたりしています。

山根委員

1学級、人数多いからですかね。

岡崎 LPM

1年生とかだとそれはあるとは思いますが。教室が足りないとか、別れてやるための空間が少ないのは確かにあると思うんですけど。それだけではないんじゃないかな。委員さんからは、先生が試験の範囲ここから出るよとか言ってたところから出なかったり、出たり。そういう、ちょっと信頼関係が築けないとかそれぞれあると思うんですけど。

山田 LPM

どうしても先生に対する、ちょっとしんどいよねっていうのが滲み出ていました。僕達はやらないんだけどみたいな話とか。そこに参加してない。

佐々木委員

学校じゃなくて、人としての。

山田 LPM

そういう誰かを想像しながら、その結果子どもは辛い思いをしてるよねっていうイメージもあるなあっていう感じもしました。先生同士の問題もあるし、その先生固有の脳的な部分、教員という技能、あるいはその哲学的な部分、大事にしたいもののズレというのがあります。すごく印象的だったのが、早来学園の設立経緯の流れからいって、細かい課題が既に解決されている。例えば追分小学校、必ずトイレが汚いなど学校のマイナ

スポイントが出てくるんだけど、そういうのは解決されています。鈴木教頭の表現だと、それをやっぱり大人達が解決してあげたというふうに。子どもは、だから次もほらこれが問題だから解決してよっていう。問題があったら解決してくれるんでしょう。これはやだ、ほらこれもやだって言って、言うだけ言って自分達で動かないっていう印象も。そんな感じの先生達の困り感みたいなのがあって、子ども達が熱くならない。

廣川委員

先生達もそういう認識を持っているんですね。

岡崎 LPM

これから先生方のヒアリングをしたいと思っていて、今までの学校でやっていた成功体験ってあると思うんですよ。そのやり方でやってた時に上手いかわいか、その辺は聞いていかないといけないかと。放課後に関しては学校外になるので、学校運営協議会とか学校協働活動とかが担っていく部分になると思います。それを繋いでいるのが、まなびおで。とりあえずこれっていうのは委員の意見だけで、因果関係までは取れていないです。なのでデータとか知識とか、そもそもデータが少ないですね。学校が持つてる。そこら辺データを取ってやりたいなと。先生がいけないんだとかそういう矢印が人から人へ行っちゃうと苦しくなっちゃうので、なるべくこうやってみんなで見て。重要だと思うのは、自分達に十分情報が無かったり、分かってないよねって事が出来ているのがすごいかなと思ってるので、学びを通していきみたいなと。その中でこれからの時代はみたいなのは山田さんに話していただいております。少なくともやっぱり追分で起きることが、あびらチャンネルとかで出てくるはずなんですよ。

山田 LPM

追分の学校運営協議会ですとそれが流れると広報効果ですけど、早来では「早来は？」って多分なるという話が予想される。

岡崎 LPM

でも早来は、基本的には大きく書いてあります●●としてるので、それどうなのって話が出てくんだろうなと。なので、まずは放課後とか地域側ができることをやりながら、じゃ学校ってどういう風にあるべきなのかを学んで少しずつ提案みたいなのをしていくと、教頭先生としても学校運営協議会がここまで来ているんだったら、先生方やりませんかみたいな動きになるような気はしています。保護者もやっぱり一筋縄ではいかなかった。PTAのあり方もやっぱり変わってきてたりとか色んなものが変わって中で、なかなか皆さんどっちだというのが無い状態で、もやもやしてる。山田さんの先ほどの話を合わせて行くと、やっぱり学ぶ時間とか学びの場を作りたいんですけど、視察費だったり、学校運営協議会って基本お金が無いので、そのお金がやっぱり必要だというのは思ってます。講師を呼ぶとか。あともう1つは、委員の中に専門家が居ないんですね。なのでやっぱりこちらの早来の方ではもう1名、例えば入れるとするならば専門家。小学校とか義務教育での例えば総合学習の専門家とか、カリキュラムの専門家みたいのが入ってくると。どうしても地域の方々はその辺詳しくないので。

山根委員

早来の方では先生との交流は、運営協議会に参加させる。去年ぐらいやりましたよね。私の時やってたんですね。3名ずつ交代で入ってもらって何を話してるのか。それで多くの先生に関わってもらって。

岡崎 LPM

本当はそういうふうになりたいと思うんですけど。

山根委員

校長先生と教頭先生が絡むってものでしょうって言って、自分関係ないって人いるんじゃない。

山田 LPM

勤務時間の問題で。

山根委員

あ、そうだね。今。

山田 LPM

勤務時間内に委員さんに来てもらうっていうのはどうですか。

岡崎 LPM

1 回拡大版はやりたいて意見はいただいているので。先生の勤務時間 15 時から 16 時半の 1 時間半を生徒とか先生を入れてやるような対話の場ができればいいねということは出ています。まずは学校の中に入って学校の様子見ようとか、あとは教育フォーラムだったり、追分の学校を考える会でも学芸大の先生呼んで交流があったりするんで、そういうところで少しずつ学んでいきたいと思いますところですね。

井内教育長

ありがとうございます。

山田 LPM

追分で 1 つ伝え忘れていましたが、元々全 6 回ぐらいのスケジュールで年間計画になってるんですけど、それじゃ足りないということで、私的な集まりっていうことで、拡大版みたいなものをやろうって今なってます。8 月に学校運営協議会やって、飲みに行こうっていう動きになっています。

井内教育長

大きな流れで見ると、早来学園がまあどっちがどっちというわけではないですけど、やっぱり震災があって学校が無くなって早来学園って早来地区のが、一歩先んじて学校について考えようっていうものがあって建物ができて実際に動きました。そしたら動いてみたらいろいろと課題が見えてきました。ということに取り組んでるのが早来のところ。追分の方はっていうと、そういった動きが今まで無くずっとやってきたけども、ただ今度ずっとやってきたけど、私達の学校これでいいのっていうところであって。それで今じゃあ、私達の追分地区の学校どうしようかっていうのを考え始めて。そしてそっちに向かっているってことだと思う。なので、それぞれの地区がそれぞれの課題を見ながら進めているということで、とにかく保護者や地域の方にお願ひしたのは、どちらかの地区の優劣ではないってことですよね。それぞれが目前の子ども達と目の前の学校のことを思って、それぞれに取り組んでいるってことなので、決してその相対的な比較はしないでくださいと。あくまでも自分達の学校と子ども達を見てくださいと。ただ町としての方向性は全部一緒なんですよ。町としての方向性として、こういった力を子ども達につけていきたいっていうのは変わっていないので、そこところで変に競争を煽ったりとか無いようにその分は留意していきたいなというふうには思っています。続いて教育指導グループ。

小笠原参事

教育指導グループのフォルダーの中に参考ということで、細かく取り上げての説明はできないですが、コーディネーターの 4 月から 6 月までの実績資料が入っております。4 月から、まあ先ほど山田さんや岡崎さんから話があった部分と関係しますが、佐々木さんが松岡さんに代わって 4 月から教育委員会に所属しています。稚内の方から中学校の社会科の先生です。今、追分中学校の社会科に入っている期限付きの先生の事業支援をしています。総合の時間に入っていて、これから職業体験のところをメインにして中学校と連携していただくことを進めています。片山さんはこのメンバーの中では経験してる時間が長いので中心的な動きを取っていただいているんですが、特に今は追分小学校の 5 年生の探求タイムのところを中心に行っています。岡山さんについては早来学園の教育課程支援事業。授業の中で地域と繋がる場所と色々な連携したりとか、場合によっては授業ゲストティーチャーとして授業をして取り組んでいます。三田さんは協力隊でファンディングベースに入っているんですが、今人手がちよっと足りなくて、応援でそれぞれの担当者と一緒に入っていただいています。小林さんが今、追分小学校の 1 年生に幼小の架け橋ということで入ってい

て、元々は小学校の先生なんです。小学校の1年生の担任を持っていた先生で、先生を辞めて安平町に来ていただいています。どちらかという小学校の立場から今追分小に入ってもらい、9月まで小学校に在籍するんですけども10月からはおいわけ子ども園の方に入って来年入ってくる今の年長さん、来年度の1年生のまあいろいろ小学校に入ってから部分をサポートしていただいて、また来年の4月から小学校に戻るという半期半期の流れで学校に関わっていただきます。早来学園も同じく架け橋の先生が去年から入ってるんですが、はやきたこども園の先生が早来学園の1年生に入ってきて、ちょうど逆の動きにはなるんですけども、それぞれの学校で今幼少の連携ということで繋ぎの部分、子ども園での生活の部分から小学校への生活学習の部分へ繋いでいただくということで今支援をしています。ここの繋がり、関係ができてきていて、子ども達の1年生になって今まで子ども園では一番年上のお兄さんお姉さんだった立場から、小学校1年生になると一番下の立場になってしまうという、そういう所のギャップを少しでも解消したりだとか、それから子ども園では遊びっていうところから学びにつなげていた部分が、小学校に入ると前を向いて一斉指導の中で姿勢を正して授業を受けなければならないっていうところに大きなこのギャップが生じてしまうので、そういうところを少しずつ解消していきましょうということで今取り組んでいます。実際のところどういう動きをしているのが学校の外からはちょっと見えにくい部分があります。学校の中に居ると、こういう風に取り組んでいるというのがわかるんですけど、一応、今回、このような形でそれぞれの方が4月からどこに関わってこういう取り組みしましたとか簡単なんですけれども表の中に入れていただきました。これが1年経つと、次の年になった時に昨年の動きとして参考になるので、このような形で活動状況を注目しています。大きな動きとしては先ほどの説明の中で追分小学校の取り組みだとか中学校の取り組みなどありましたので、今後、予定の部分も含めて参考になるような動きがあれば紹介していこうと思います。

井内教育長

教育指導グループ、ご意見よろしいでしょうか。社会教育の方はありますか。

渡邊次長

資料とさせていただきます点検表で、先ほど議案の中でも説明をさせて頂いた通りになんですけども、教育委員会側の評価として出させてもらったものがまず皆さん方に見ていただいているものとなっております。7月の17日に社会教育委員会のご意見をいただいて修正も考えたんですけども、我々側の評価と委員の意見、これを見ていただきながら最終的に教育委員の皆様としても、今回報告させていただいたものを点検評価をしていただければありがたいかなっていうふうに思っております。委員さんの声については16ページ目のところにグループ分けしながら、グループディスカッションいただいた中での意見の主だったものについては記載をさせていただきます。こうした意見を元にしながら次に繋げていきたいなっていうふうに思ってます。今回のグループディスカッションなんかで個人的な感想になるんですけども、去年の議事録見ても若干ちょっと感じたところとしては、意見だけをいただいて方向性を出し切れなかったというのが今回の社会教育委員会の中でも同様にちょっと感じたところではあります。いろんな意見はある中で、じゃあ向かうところがどこなんだっていうところを次回の会議の中で少し示していきたいっていうところの一つが、まあ施設関係のあり方検討。ここはちょっと社会教育委員会の中でもグループディスカッションで方向性がちょっと出し切れなかったなっていうところがちょっとこの会議での反省点だったのかなと思ってはおります。いろんなご意見をいただいたところを既に作業始めているんですけども、第三期の総合計画であったり、社会教育の方の計画の方に反映していくところ、現在新年度予算に向けて実施計画の動きとしてはスタートしておりますので、そういった中にいただいたものについてどう反映していくか今後考えていきたいと思っております。全体的には説明が全部でききれないところもありますので、お戻りなられて後ほど見ていただきながら、何か意見としておありの場合は直接的に私どもの方にご意見いただければ、またいただいた意見として反映させていきたいなっていうふうに考えておりますので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

井内教育長

社会教育グループ、先ほどの協議の中でもありましたけども、さらに補足して説明があったところですが、よろしいでしょうか。

山田 LPM

LPM の部分で追分高校の報告をしたいんですけど。先週、教育長、庄司校長と3人で千歳、恵庭の全14中学校を回って参りました。1年生から3年生まで全員にパンフレット計4500部、千歳、恵庭の中学生世帯に配ってきました。感触としては非常に良く、追分高校があることで救われている子供が非常にいるし、追分高校のおかげで子ども達が居場所を見つけてリスタートを切っている話を聞いているし、先生達が暖かく迎え入れてくれて、頭が上がらないという印象を追分高校に対して中学校の先生が持っていたらいいような。知らなかったけど、そんなにいい学校なら勧めますって声をいただける先生もいらつたり。いい2日間でした。あと、お金の使い方として今回12,000部パンフレットの印刷をして、8月の広報あびらで3,300部を安平町内に配布しました。今年度で10,000部ぐらいのパンフレットを配りましたが、かかったお金が7万円です。去年までは1,500部、47万円使ってます。お金の使い方という意味で、広報戦略含めてしっかり町民に対してどういう結果を出していくかっていうことが、私が入っている意味だなと思っています。お金の計算をしながら効果を最大化していく。高校が今まで悪かったって言うわけじゃないですよ。知らないで。パンフレットの相場とか。ただこれは、補助金を追分高校がどう使っているかという話で、そういう今までと違う動きをしながら結果を出そうとしています。

守屋委員

万単位で作って、7万ぐらいでいけるって。

山田 LPM

もちろん今年度の予算です。去年のうちにデザイン料を払い終えてるって言うカラクリはあるんですけど。印刷代だけで70,000円、今年度計上。昨年度と同じ予算要求でも、イオンでやったやつなど別のことができます。

井内教育長

少なくとも、1万人以上の方が追分高校のパンフレットを目にするっていうのは、今までにない動きです。よろしいですか。で最後私の方から。まあこれも私少し時間かかってしまうんですけど。まず最初にこれは皆さんの資料でR8の学校教育運営にあたってっていうところなんですけども、これも長いので全てではなくて、8ページ目のところに9令和8年度重点項目っていうのがあります。これは前回の教育委員会のところで説明したものを、ワードの形式でまとめたところです。大きな変更点等はありませんのであくまでも整理しただけです。その中の①の令和8年度学校運営協議会の充実は、今、岡崎さんと山田さんがやってくださってるこの動きをそのまま来年度充実させますというところです。それと地域学校協働活動っていうものは、地域の方と一緒に学校教育とやってみましょうと。安平川学習とかが一番いい例なんですけど、そういった活動も含めて進めていきたいと思いますというところです。これ「きょうどう」っていうのが2つ字が違う「きょうどう」っていうのを入れているので、上の前半の方は安平川学習です。で後半の方は足腰シャンシャン教室です。足腰シャンシャン教室学校使ってるけど、別に子どもと一緒に何かやってるってわけではないです。だけどこの間、2年生の子がおじいちゃん、おばあちゃんにファッションショーを見せたいって言って、授業でやったファッションをランウェイ作っておじいちゃんおばあちゃん見せて。そしたらおじいちゃん、おばあちゃん大喜びで。こういう、別に学校のためにやってるわけじゃないんだけど、同じ場所で活動してるから結果繋がるねっていうのが後半の方の共同活動です。先ほど山田さんが話してくださった話に関わるんですけど、学校の予算を一部、学校運営協議会に振替れ

ないかっていうのは今調査研究中です。検討の前の段階です。そうすることによって、学校運営協議会の方でより自主的な動き、ただそれも校長先生がしっかりと、こういったことにお金を使いたい、で使えるんじゃないかとか。教育委員会が全て持っている教育委員会予算になって使い勝手が悪いところが、学校運営協議会が持つことによって、より柔軟的な使い勝手ができるんじゃないかなというのが①のところ。②は、今これについて検討してを進めているところです。③番もやはり視察研修が必要だねっていうのもありましたので、積極的に見に行きたいですねというところです。で、③の丸の3つ目。町教委による協働型伴走支援っていうのは、先ほど話あった小林さんの方が幼保小架け橋の中に入ってますとか、佐々木亮さんの方が入ってますとか、学校の先生方にやってっただけじゃなくて、委員会のスタッフも一緒に入ってやりますっていうのがここです。で、④のところは前回も相談乗っていただいた、特に4月の段階で6歳児及び7歳児、入ってすぐの時にすぐ帰っちゃうね。だったら学校で残って少し遊んだ方がいいんじゃないかという話とか、後は④の丸がたくさんある下から2つ目。積極的休養日っていうのが年間5日、そこのところ休みをやりましようっていうところがそうです。で、⑤のところは、追分地区が先行的に柔軟な教育課程の編成と総合的な学習時間を増やましようというのをやっています。特別活動充実とか、あとは地域と一緒にって社会に開かれた教育課程っていうのは総合的な学習の時間。これは早来学園でもやっていますから、こういったところやましようというのを重点としておきます。でこれをまず校長会にお示して、また校長先生から意見をいただいて、上からこれ全部やっただけではなく意見をいただいて、摺り合わせた上で大体9月10月ぐらいに確定することができたらいいかなと思ってます。でそれを踏まえた上で、各学校が今度こういった学校経営やましようということを進めていきます。今までだと、こういった方向性っていうのが年明けぐらいに教育委員会からポーンと出されてたので、かなりまだ7月で早いですけども、もう今の時点で少し先を見通しながら進めていきたいなと思ってます。でこれが学校教育の方で、1つ戻って社会教育っていうのがあります。で、これが今日初めてお示しするものなんですけども、これは画面見ていただければ、これで説明していきますので、こちらの画面をご覧ください。これが第3期の生涯学習計画ってことは一つ前です。1つ前の生涯学習計画って章立てをして、学校教育と社会教育ってこれ分けてるんですね。分野ごと体系化した計画で非常にいいんですけど、まあメッセージ性としては学校教育と社会教育は分かれますよってメッセージをはらんでる訳ですね。なので、こういう社会教育の分野もこういう分野がありますって分野分けがされていると。でこれをまとめたのが、これ2016年の時に僕がまとめたんです。まだこの立場だとか全然思ってなかったんですけど、2016年にはやきたことも園1年目の時ですね。生涯学習計画どうなってるのかなんて見た時に、結構こうやって別れちゃってるなと。で、もう1つ見たのがこちらの図で。じゃあ子ども達の状況ってどうなのかなと思った時に、これが世代なんですけど、ここの赤の世代が子どもと全く関わってないねって。この子離れ世代ってのが大体50から65歳ぐらいで、高齢者っていうのがまあ65歳以上と言われてるんですけども、まあ大体今だったら70以上だろうなと思ってます。で20代も子どもと関わらないし、高校生もないし、子育て世代は我が子以外と関わる機会がまあちょっとあるかなって。で子ども達はっていうと、学校に行ってるから学校で先生以外の大人と出会わないっていうのが2016年だったんですよ。でこれはちょっと変えていきたいねっていうのでいろんな取り組みをやって、今だいぶここのと少し変わってきたかなって。2016年の段階でこんななったらいいですねって。いろんな人が子ども達と関わったらいいですねって。繋がりも出る。つまりこういった分けちゃうモデルじゃなくて、繋がりモデルがいいですねというのがあって。で、それを取り組んでいきたいなって。こんなのが頭の片隅にあって、今回、生涯学習計画第4期っていうのができましたと。で第4期は章立てになってるわけでもなく、学校教育と社会教育は明らかに分けてるわけでもなく、領域で分けてるんですね。知ることを学ぶとか、行動することを学ぶ、共に生きること、らしく生きることがあって、領域で分けましたと。分野と領域って、分野っていうのはその生物分野とかありますよね。何だか分野とか。もう完全に分かれてるんですけど領域っていうのは、なんと

くこれ重なってるよねっていうのが領域だと思ってください。でここにあるのは生涯学習は社会教育で、この社会教育これ全部が社会教育なんです。全部が社会教育の中に学校教育あるよねっていうのと、子どもと大人を分けなくて考えていきたいよねっていうのが、今の安平町の全体の流れなのでこの方向性で。でこの4つの領域でやりました。で、これ1個ずつ少し見ていくと、知ることを学ぶっていうものは、取り組みとしてまあこういったことを探求的なものですよなとか、DX関係ですよなとか、こういったことが入ってきて知識をただ受け取るじゃなくて問いから始める学びですねっていうのが知ることを学ぶ。で、子どもから大人までそのままに学び合えたらいいですよなっていうことがベースとしてあるんじゃないかなってふうに思ってます。行動することを学ばせて言ったら、あびらトークスで実際に行動を起こしますっていうことだとか、ボランティア活動とか、地域活動とか、町民がやってみたいなっていうのを規定にした町づくりだとか。でこの視点っていうのは、自分からこうやって行動起こしたら社会に影響を与えるんだよねっていうことと、あと挑戦を応援して、失敗を受容支援する地域風土を作りたいですよな。あとは地域資源と町民企画で社会的な何か物ができたらいいですよな。この辺りを生涯学習計画では謳っていて。共に生きることを学ぶってことは、共になので共に遊びましょうだとか世代間交流だとか、外国籍の方とかまあ多文化共生もそうですけども。あとプレイパークもそうですし、まあそういったもので制度や属性を超えて一緒に生きてましょうだとか、子ども、高齢者、障害がある方や外国人のいろんな声が生かされる場づくりがあったらいいですよなっていうのがこっち。最後にらしく生きるというのは自分らしくってということなので、自分らしく生きていましょうって時にはこれ福祉の視点っていうのが入ってくるかなって。例えば子育てとか介護とかが必要になってしまって、その自分らしさっていうものはあるんだけど、いろいろな制約を受けてしまっということも出てくるので。あとは文化スポーツ活動もこれ自分らしくっていうやりたいことができるんだってということもそうかなって。あとは居場所、視点。先ほど放課後の居場所っていうのもありましたけど、こういったものも含めて。で学びがアイデンティティを育むのではないかだとか、居場所とか自己表現の機会が地域に埋め込まれてるんじゃないかとか。教育施設これ学校だけではなくて、町民センターとかもそうですけど、それが生き方を支える支援拠点となるっていうこういったのがあって、じゃこれをピラミッド形式で言ったらこんなふうに頭の中ではイメージしています。で今年度はまだデータ収集と情報分析ぐらいで精一杯かなと思ってます。で、来年度もまだこの情報分析に時間がかかりそうだなって。で計画作るところまで。で、第三次の総合計画って町の大きな計画が令和9年度からなので、そこから始めましょうと。ってことは令和7年度と令和8年度は、まずは社会教育では何をやるのかっていうことをしっかり分析計画していきたいなというふうに考えています。で、具体的についてもものがここらなんですけど、令和8年度でいくつかあります。で、1つは社会教育施設の見直し。これは社会体育施設はスキー場プールっていうのもあるんですけども、それに合わせて社会体育環境、スポーツ環境どうしましょうかっていうのも含めて。あとは指定管理施設の運営。町民センター指定管理になったんだけど、そこどうなのかなって必要に応じて指導助言を行いたいなと。あとは社会教育施設についてのあり方。社会教育施設は公民館とかそうです。この公民館どうしてって。町民センター改修終わったんですね。けど追分公民館はまだ1回も改修してないんですよ。だけどあれ使い続けるから。じゃあどうしましょうかっていうことだとか。あと遠浅公民館と安平公民館もあるんで、そこはどうしていくんだ。あと郷土資料館も社会教育施設ですね。こういったのを考えていましょうと。で、平和教育はまずは継続して。今年度のやつをしっかりと継続して進めていくんですけど、委員会が全部やるんでなく町民主体の活動っていうところが何かできないのかなって。平和教育大事だっていう町民の方が多いのであれば、一緒にやりませんか。教育委員会やってくださいというのではなくて、一緒にやりませんか。で町民主体の学び。これはこれがどういったものなのかっていうのがまだぼんやりしてるので、これをしっかりと調べましょうというところです。部活動の地域展開が学校教育から社会教育に移るので、移って社会教育としての多世代のスポーツ文化環境どうするんだってところの方向性を第3次総合計画に反映できたらいいなと思ってます。後は来年度 NPO

が、つまりアビーが中体連の事務局業務を担うんですけど、これ全国初ケースなんですよ。でこれをまあ支援するのと、あと支援した結果やってみてどうだった、やっぱり無理じゃないってのはあるかもしれないですね。なのでその辺も含めてそここの資料をこれ提供するっていうのは中体連に資料を提供するんですね。よかったですとか、いや難しいですっていうのを。うちがずっとやり続けるわけではないですから。あと、中学生世代のスポーツ文化関係は、国の方で保護者の負担って大体これぐらいですよっていうのが出してくれるそうです。国の方で、で、そういった費用負担だとかあり方ってのが出てくるので、それに合わせて進めていきたい。あと公民館活動。公民館活動が今少し動きとして弱くなっていうふうなイメージがあるので、これももう少し盛んにしていきたいなあと。図書館活動っていうものもあるんですね。だけど図書館活動って今何やっていますかって言うと、絵本の読み聞かせはしてはいるんですけど、他に図書館活動ってどんなことができるんだろうっていうところも、何かやりますっていうよりもこの2つとも調査研究。まずは調べましょうというところ。手をつけはじめましょうというところ。で、自然体験活動。この自然体験は子ども達の遊び場とかもそうですけども、せっかくキャンプ場、いいキャンプ場が2つあってさらに民間キャンプ場もあって、1つは指定管理もしてるのであれば、以前は登山とかもやりましたからそういったのも含めて大人とか高齢者の自然体験が散歩っていうのもあると思いますね。今も追分でやっていますよね。春先に。そういったのも1つの自然体験っていうふうにして考えていたら、これも出てくるのかなと。あとここです。社会的障壁当事者。これは先ほど少し触れましたけど障害とか育児とか介護によって参加したいけど参加できない、参画したいけどできないっていう制約がある町民に対して、じゃその人方の学びはどうしたらいいんだろうかとか。この部分を少し考えていきたいなというふうに思いますし、これは社会の側が、介護がある人でもまあそこら辺少し柔軟に、働き方も含めて何かやるからさあって、大丈夫だよっていう社会になれば、障害は本人の障害なのか、それとも社会が変われば障害でなくなってしまうのか。そういった今車椅子のパリンピアンの方もいらっしゃいますけども、その方も単に車椅子っていうだけで他は問題ないので、だったらそこを整えたらそういった障壁がなくなってくるのか、この取り組みについてもこれは大体調査研究で調べていきたいと。あと日曜日また堀江さんがコンサートやって、またすごい人。自分も行ったんですけど、すごい人が来ていて、たくさん人数集まりました。でそういった、あれは芸能活動なんですけど芸術活動もあるし、例えばそれ以外にはお裁縫カフェみたいに裁縫やられてる方もいて。じゃ裁縫は芸術か、芸能かっていうと、いやまたちょっと別なとこだねって。のらぼーとかっていう取り組みとかも、あれも安平町でやってくださってすごい取り組みだなと思うんですね。で、こういったものについても関わってきたいと。あと郷土資料は、将来的な郷土資料館の検討に向けて現在の資料の整理、あとは炭鉄港。で、安平町の中でしっかりと物が残って郷土の資料となったら、遠浅酪農の酪農関係は雪印がだいたい持っている、その中にきちんと格納されて保存もされてるんですね。となると、安平町が持っているのは国鉄。鉄道のっていう所があるので、その鉄道の部分をしっかりと残していきながら。あとは馬もあるんですけど、馬もノーザンさんが持っているんですよ。だからその安平町が持っているのではなくて雪印とノーザンが持っているっていうのがあるので、じゃあ安平町がもっているもの、しかもこれが日本遺産なのであれば、それをどうしていくのかがっての見ていきたい。でデジタル教育。これは今、総務の情報グループでスマートワークと言って、子育て世代のまあ女性の方が多いですけど、そこで自宅で仕事ができるような学び直しのことやっていますけど、こういったものだけではなくて、高齢者世代もやはりスマホ教室とか以前ありましたけども、まあそういったのも含めてこういったものが試しにできるように行かないかなと思っています。国際理解教育。これも台湾とのところが昨年度で1つの区切りをつけて今年度は台湾と特に町としやっちはないですけど、じゃ国際理解教育、特に外国人の方がラピダスも見えてきたんでそどうするんだっていうこの方向性をまず定めないことには、何か入れましょうっていうところに行かないので。でこの、これもただの交流的な活動に留まらずっていうのはもう外国籍の方が町内に住んでるですよ。今まで海外の方と交流しましょうだったけど、今度は同じ町民ですって話になった時にどうしていったらいいのかって

いうところ。これも出てくるだろうと思います。あと放課後の魅力化。先ほども上がってましたけど、放課後の部分これは学校教育が放課後の部分を持っているところもあるんですけど、社会教育的にもどうしていったらいいんだろうかと。あと下の2つは安平町ならではすよね。オーガニック宣言をしているということなので、食育についても力を入れてほしいなというのが先日の社会教育委員の会議でも出てきましたから。ただ食育って実は健康福祉課なんですよ。で健康あびら21ってところがあるので、うちらがずっと持つてくわけじゃないので、そこでの整合性を図る。あとゼロカーボン。これゼロカーボンは、追分公民館のところソーラーパネルのカーポートです。ソーラーパネルのついたカーポートを設置して。そういった取り組みをやっていくようなものもありますから、安平町が教育に関わって外に言ったオーガニック宣言とゼロカーボンっていうものがありますから、そこのところしっかりと何らかの形で関わっていただけたいなというふうに思っています。これらの活動が全てここにあるんですけど、この4つの領域、人の生き方や成長にかかる学びの領域で、第4期の生涯学習計画は令和11年度まで構成されていて、でベースにあるのはやはり子どもの権利とは言ってるんですけど、子どもだけではなくて当事者の権利。高齢者なら高齢者の当事者の権利、成人なら成人、そして社会的障壁のある方は社会的障壁のある方の当事者の権利を見ていながら。令和11年度までの5ヶ年なんですけど、まずはこの2年間しっかりと情報分析とかをして行きながら、令和9年度から取り組んでいきたいと、まず大きな方向性として考えています。本日まずこれをお示しさせていただいて、改めてまた次回の教育委員会の中で今度、意見をいただきたいなと思います。なので見たけどこの部分抜けてるんじゃないかとか、この部分はどうなってるんでしょうかっていう今日示してすぐ意見っていうのはなかなか難しいと思いますので、まずは本日これを提示して、その上で意見をいただいた上で改めて事務局で考えて最終的に出していきたい。そしてその中で予算が必要なものについては、予算配分していきたいなというふうに思っています。はい、私の方から今回は以上となっています。まずはこういった方向性についてはいかがでしょうか。次の時にまた意見いただけますっていうことに。

守屋委員

まずこの2年間で、令和9年から始まるものにどこまで詰められるかですよね。

井内教育長

今までやっぱり震災以降、学校教育の方に少し力が入っていて、もちろん社会教育に力を入れてなかったわけではないんですけど、そちらに目を向いていたんですけども、まあ一段落してこれから社会教育のところしっかりとやっていきたいなというので、今回このようにしてみました。

山根委員

アビーの支援はどのように考えてるんですか。教育委員会事務局から出向させるのか、その事務局を持つて期間だけ出張扱いで支援してくのか。

井内教育長

今確実にこれっていうのはまだ、体制はお示しできないんですけども、中体連の事務局を担うとなるとかなりの業務量があると思うので、その部分について何らかの支援というのは検討していかないと難しいだろうなと。

渡邊次長

来月、文科省主催でフォーラムがあります。今回、私と学校教育側から1名、あと副町長に行っていたきながらフォーラムに参加すると、まあ来年、地域移行して民間側で初めて全国で部活動の事務局の準備があるもんですから、フォーラムの中でいろいろディスカッションがあるので、安平町としては全国初の取り組みに対して人的なものともまあ数値的なものと含めてなのかなと思っているので、ちょっとどういった形でこうまあ意見を吸い上げてやっていただけるようにもっていくかなってのがあるんですけど。そういったところからスタートと、合わせて私以前、企業誘致なんかも担当してたので合わせながら企業廻りも一緒にさせていただきたいなと

教育長をお願いしてたんですけど。アビーの経営を安定させるためには、やはりこう法人会員とか個人会員もそうなんですけど増やしていかなければならなくて。先週、安平町誘致企業会なんですけれども今年度から定期的な法人会員になっていただきながら、5万円なんですけれどもこういった企業様、安平町に関わっていただけたところに情報発信と、来年度を予定してるんですけども、合併20周年に合わせて北海道安平会を設立する予定になって。今東京安平会があるんですけど、北海道バージョン。作業進んでるかどうかちょっと政策推進課なんですけど。ここに我々を一枚噛ませていただいて、安平町に関わっていただきながら、新しく支援なんかを仕掛けていきたいなっていうのはちょっと考えているところです。来年度社会教育に移ってくるので、なかなか全国的にも先端に行くので、まあ我々がやるのが後々、後発の自治体の参考になれるように。当然、文科省のご協力とむかわ町は国から支援制度を使って派遣ですね。そういったこの活用とか、国や道にも積極的に協力していただきながら進めて行かないと駄目なのかなと思います。逐一共有させていただきながら、どうやってこう説明していくか。説明責任を果たしていかなければ、なかなかご理解いただけない。委員会の決定で全ての決定ができるわけではないので、議会に対してきちんとやっていきたいと思います。

山根委員

事業所廻りするんだったら、昔はライオンズもスポーツに結構お金出してたんですよ。

渡邊次長

そうですね。ライオンズも、今まで色々ご支援いただいているのかなとは思っています。建設協会もありますし、ライオンズもありますし。

廣川委員

ふるさと納税っていうのもありますよね。

渡邊次長

安平会とか個人的にはアプローチできるんですけど、企業版って実は3年間延長しかできないんですよ。令和7年から3年間延長していただいたので、なんとかメーカーさんなんかにもご協力いただけないかご相談に伺おうかと思っています。あと、地元に関係するような企業さんですか。例えば、スポーツウェアを整えて、そういったところからとか。社会教育側から言えばネーミングライツとか、いろんな方法があるのかなと思っています。そういった調査研究を今年度、来年度に行って、第3期のところに照準を合わせていきたいと思っています。

井内教育長

いろいろなネットワークとアイデアと持っていますので、渡邊次長の強みを思う存分生かしていただくと。ほか、社会教育の全般に関していかがでしょうか。では、私の方からのを終わります。では最後その他。

佐々木次長

年間予定では8月27日水曜日、1時半なんですけど、委員の皆さんいかがでしょうか。

山根委員

大丈夫です。

佐々木次長

それでは27日水曜日、1時半から、またご案内したいと思いますので、よろしくお願いします。あと、前回か前回ちらっと話したんですけど、移動教育委員会もしくは学校訪問など、学校参観じゃないですけど行ったらどうかと思いますが、

佐々木次長

よろしいですかね。時期的に秋ぐらいで、ちょっと涼しくなってから9月、10月辺りで日程調整させていただいて、給食とかその辺は。食べてみたいとか。

守屋委員

食べれるんだったら食べてみたい。

佐々木次長

お昼前後で調整しますか。では、日程が決まりましたらご連絡いたします。

渡邊次長

先ほど伝えればよかったのですが、社会教育側の新しい取り組みとして、公民館講座だとかふれあい大学に課題があって、7月24日にふれあい大学があるんですけども、北電さんが連携協定を提携していてゼロカーボンに関係する講座を開催いたします。追分公民館で開催するんですけども、今回ちょっと新たな取り組みなんですけども広域でできないかなってことで調整させていただいて、今回むかわ町さんと合同での高齢者大学講座をやらせていただこうかなと思っています。厚真町が調整がつかなかったんですが、広域は来年に向けて継続的にやってくるんですけども、持ち回り大学講座やるですとか3町で連携した取り組みもできないかなっていうものです。厚真町さんに伺ったりだとか、むかわ町は人数少ないんですけども連携調整ができたので、今回事業として組み立てたわけじゃないんですけども、新しい取り組みとして広域講座をやっていこうかなと思っておりますので、お時間がありましたら7月24日10時から。むかわ町からは数名ぐらいなんですけども、参加いただきながら。これを少しずつ広げていくと、3町持ち回りでやっていくとか、まあ人の交流もできますし、事業予算の使い方として、今まで3回やったのが1つで集約できるとか、もうちょっとボリュームアップできるような講座ができるのかなという報告と、あと皆様方に情報提供させていただいております、施設の見直し点検。スキー場の関係なんですけども、口頭では説明させていただいたんですが、8月4日に今相談をいただいているってどうか、利活用検討していただいている企業さんがこちらにお越しになります。町長、副町長含めて今後のスケジュールですとか進め方なんかご提示いただけることになりますので、見えるものがあればまた共有させていただきます。

井内教育長

はい、それでは以上を持ちまして、令和7年度第4回安平町教育委員会を終了したいと思います。お疲れ様でした。

閉会 15:25

署名教育長 _____

署名委員 _____